「観音寺日譜」(4)

（京都府乙訓郡大山崎町観音寺所蔵）

——宝暦二年日譜①

石井日出男

本稿は、宝暦二年（一七五二）「観音寺日譜」について、その前半に当たる正月元旦から六月晦日までを解読して紹介する。この時期における観音寺の住持（院家）は、延享四年（一七四七）に就任してから六年目となる第五世の泰空である。

この泰空を含め、第一世以空の事績[1]を除くと、管見の限り、歴代住侍の任官等の履歴は従来未解明であるから、以下、第六世敬空の権僧正任官までを誌した記録[2]により、歴代住持の履歴について触れておきたい。

第一世以空は寛永十三年（一六三六）に出生、貞享二年（一六八五）五月二十三日に霊元天皇から「等引金剛」の賜号があり（五〇歳）、元禄八年（一六九五）七月二十七日、令旨により御室御所法浄院跡を永兼帯（六〇歳）、正徳五年（一七一五）四月二十二日に隠居（八〇歳）、享保四年（一七一九）七月十三日に遷化している（八四歳、

戒臘六〇)。任官の次第については以下の通りであるが、「官計(ばかり)ニ而位階無之」、法浄院跡永兼帯以前は、すなわち権大僧都任官までは観音寺住持の名義で官位の勅許を受け、権僧正以上の官位は法浄院の名義による。ただし、権僧正は御室御所の執奏によったが、僧正以上の官位は推任であった。

元禄三年九月三十日　権律師　五五歳
元禄五年六月十八日　権少僧都五七歳
元禄七年九月十五日　権大僧都五九歳
元禄十二年七月九日　権僧正　六四歳(戒四〇)
元禄十五年二月十六日　僧　正　六七歳(戒四三)
宝永七年九月二十六日　大僧正　七五歳(戒五一)

第二世空元は「初官ゟ権僧正迄法浄院弟子并住ニ而何茂御室御所之御執奏」による任官となる。権僧正申請時、五〇歳であったが、「表向之書上ケハ」五一歳に、したがって、法臘は四〇に潤色し、さらに、元文二年(一七三七)十二月には正僧正位を申請(六二歳)したが、「當時御所御無住ニ付御執奏難被成」、これは実現しなかった。なお、以空の隠居に伴う住職就任は四〇歳の時であった。元文三年七月四日に遷化している(六三歳)。

元禄十三年八月七日　権律師　二五歳
元禄十五年二月五日　権少僧都二七歳
宝永元年十二月四日　権大僧都二九歳
宝永三年十一月二十三日　法　眼　三一歳

宝永五年十月七日　　法　印　三三歳
享保十年二月二十六日　　権僧正　五十歳（戒三九）

第三世満空は、老衰の空元の要請を受け、元文二年十二月十六日に智積院の学侶から転じて実質的に入院住職となっているが（五三歳）、翌三年二月十四日に空元の下で灌頂修行し、表向き、公辺、御室に対しては同年五月入院としている。この年の夏に法浄院室を相続、寛保二年（一七四二）正月二十九日、五八歳で遷化している。

元文三年十月　　法　印　五四歳（戒四四）
元文三年十二月二十四日　権僧正　五四歳（戒四四）

第四世等空（満空の弟子）は寛保二年に入住し、同年三月八日に御室御所の院家直参の令旨を受け、延享四年（一七四七）に隠居、寛延三年（一七五〇）十一月四日に遷化している。この等空については、依拠史料の記載内容からは年齢を一つに確定することが難しい。すなわち、寛保三年（一七四三）十二月二十八日、法印に叙位されているが、その際の申請書の写しには三一歳とあり、この年齢を採用すれば、住職就任は三〇歳、隠居時の年齢は三五歳、三八歳にて遷化となる。ただし、別に遷化時の年齢を三三歳とする箇所もあり、等空の年齢については、差し当たり留保しておく。[3] ともあれ、後住予定者が満空から師資縁断されるといった事情があり、等空は若年で観音寺の住持職を継席したのであった。なお、等空は未僧正（権大僧都）で遷化したが、明和三年（一七六六）十月二十五日、第五世泰空が等空の十七回忌を控えて等空への権僧正位贈官を申請、これは御室宮令旨により実現している。

第五世泰空についても、遷化時の年齢を四九歳と解しうる箇所があるが、権僧正ならびに僧正任官時の年齢を採用して、延享四年（一七四七）の住職就任が三七歳、安永二年（一七七三）五月十八日に六三歳にて遷化と解釈し

ておく。[4] 泰空は等空よりも年長ということになる。

宝暦八年三月六日　　権僧正　四八歳（戒四〇）
明和四年三月二日　　僧　正　五七歳（戒四九）

本稿は、神奈川大学日本常民文化研究所の共同研究及び一九九八・九九・二〇〇〇・二〇〇一年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究B・一般二（研究代表者　中島三千男、課題番号一〇四一〇〇八四）の成果の一部である。なお、神奈川大学日本常民文化研究所の調査を快諾され、伝世の貴重な所蔵文書の公開を決断されて提供して下さるとともに種々のご教示に与った観音寺の井上亮淳氏（種智院大学教授）に厚く御礼申し上げる。

註

（1）内容に疑問の箇所があるが、差し当たり、『密教大辞典』（縮刷版、法蔵館、一九八三年）、『密教辞典』（法蔵館、一九七五年）などを参照。

（2）「代〻住持任官ㅐ参内之事」（観音寺文書）。この史料は、安永七年（一七七八）正月十四日、御室御所当番から法浄院権僧正（敬空）に宛てた書状の写しを下限とする。本稿は敬空については触れない。

（3）（4）等空・泰空の入寂年齢について、吉川一郎は『大山崎史叢考』（創元社、一九五三年）において、それぞれ三三歳、四九歳としている（同書、三四九～三五〇頁参照）。石井も前稿（『「観音寺日譜」(1)――延享元年日譜②』、神奈川大学『人文研究』

第一三七集、一九九九年九月）で「歴代住持」表を作成するに当たり吉川氏の見解に従ったが、現段階では、本文のごとく、等空・泰空の入寂年齢（泰空については、入寂の月日も）を訂正ないし留保する。時には官位申請時に年齢の潤色があり、また継席の手続上、既に遷化した住持名で隠居届を提出する、したがって、入寂月日が複数存在することもあって、年齢の確定は必ずしも容易ではない。

「（表紙）寶暦第二壬申歳
日　譜
正月吉祥日」（24.4×16.4）cm

申正月元旦天氣
一為御礼登山
大工平治
新六
次兵衛

二日大雪凡壱尺余之積

一年甫之為御禮登山　　中西右馬子息

一為御礼登山　　古市徳王寺

一同為御礼、淀過書座年寄斉藤小八郎ゟ使、一樽来

一京都仙御屋敷江御状、使善助

一甲子

一紀州和哥山延寿院へ御使者　　三宅平兵衛

此趣者此度　大屋形様御卒去ニ付、御使僧御下被遊候旨相頼被遣候也　　供和介

三日半天

一為御礼登山　　河内屋平左衛門

一當所社家中例之通為御礼登山、両太夫共　　吉野屋与左衛門

四日

一京都鍋嶋御屋敷、西屋敷、津嶋へ菓子之義断申入也　　使　関介

一丁子屋庄左衛門方ゟ中法之御菓子来也

一高槻宮田冨田へ當月分御札被遣　使僧住観房　供藤助

一登山　大仙院

五日晴曇

一御院家御出京、年始御礼

一栗巣（橋）野村庄屋御年頭礼ニ登山

一登山　中性院

一神宮寺ゟ使来

一石井平右衛門ゟ使来

六日雪天

一登山　徳王寺

一登山　神宮寺

七日晴天

一御院家御帰山　寛道房
一登山　覚城房
一登山　蛭子屋善兵衛
一為年頭之御礼登山　香具屋九郎兵衛
八百屋庄兵衛
一退山　徳王寺
一登山　智明房
一同　林亮房
一同　塔之房
一同　中西右馬
一帰山　三宅平兵衛

八日

一太元中法開白　徳王寺
一登山

一同　　中西右馬
　　同豊之介
一田中伊賀ゟ使来
一山崎町ゟ木屋重次郎當病平愈之御祈祷頼来
一（無記入）

九日晴天

一登山　　河村与惣右衛門
右者為年礼并藤次郎祈祷頼
一木屋久左衛門重次郎祈祷之御札頂戴參
一年始為御礼登山　　安松為徳老
一同登山　　佐竹幸内
　　丸屋与十郎
　　信州空聖房
一登山　　中西右馬
一退山　　同豊之介

十日晴天

一中法御結願

一仙臺御屋敷江使僧　養全房
一退山　供和介　塔之坊
一年甫為御祝詞登山　信州　空聖房
　三宅伊兵衛

十一日晴天

一伏見御奉行へ為年礼使僧　住観房
　宇治上林又兵衛、淀過書座年寄中、如恒例被遣也　供権平
一退山　智明房
　林亮房
　徳王寺
一退山　神宮寺
　中性院
一同　安松為徳
　丸屋与十郎
一私用ニ付上京　神咒院

一退山　覚城房

一年甫為御祝詞登山、尤一宿也　八百屋　久兵衛

一同登山　藤村佐渡　御乗物師　亀屋源右衛門

十二日天氣

一先達而磯野要助致死去候得共、表向為知無之候故、内〻為悔使僧　観道房

金百疋煎茶二袋釣柿一重被遣之也

一京使　関助

仙臺江御献上之御菓子筥持帰ル也

一帰山　神咒院

一年甫之為御礼　松屋　源七

一紙屋庄左衛門方年始為御礼、安兵衛登山

一あん拵也

一年始為御祝詞登山　多門院

十三日半晴

一御嘉例之通、中西右馬子息山下御出入之もの不残御節飯、河内屋平八登山
一年始為御祝詞登山　丸屋　五兵衛
一同登山　油屋　弥兵衛　屋ねや　清左衛門
一御團拵也
一年始為御礼登山　淀過書座　宮田弥五郎右衛門　斎藤小八郎
一登山　和哥山　延壽院　家来一人

十四日雨天

一大屋形様御不幸納經使僧明十五日發足、京都御留守居為心得御屋敷へ參ル、延寿院雨天故加籠也、供　権平

十五日

一大屋形様御卒去ニ付、江戸御屋敷へ紺紙金泥之理趣經納使僧　延壽院、供　藤助
今朝七ッ半發足、本馬壱疋、道中十一日之積也
一勧修寺宮様江年始為御祝義使者、乍序延寿院為見送之同道也　松田郷左衛門、供　和助

一年甫之為御禮登山　茨木屋惣兵衛

一當所社家年礼ニ登山致候面〻江為挨拶使者　井上主悦　供　善介

例之通ニ御札午玉（「午王カ」）御團被遣之也、両太夫へ銀三匁宛也

一住友吉左衛門方へ浴油一七箇日之御札歓喜天御團其外例年之通ニ被遣也、使者　三宅平兵衛

夜船ニ而下帆也

十六日天氣

一品田万吉ゟ御初尾御酒一樽、使来　神咒院

一八幡參詣　養全房

十七日半晴

一年始之為御礼登山　松田新藏

一登山　中西右馬

一国元へ罷下　神咒院

大坂迄善助被遣也

十八日昼迄雪

一例年之通當月分御札御献上、西條柿一箱、長はしさまへ御札、西條柿一箱、右京太夫とのへ手製墨小一梃

使僧　文敞房

御長持二人　関助　理兵衛

御献上昼九ッ時ニ首尾克相納、夫ゟ文敞房安松為徳老所へ被相見舞、途中ゟ腹痛候故紙屋ニ逗留也、御長持二人罷来

一大坂ゟ罷帰　三宅平兵衛

昨晩神咒院為送候人を罷連帰　供　善介

十九日日和

一年甫為御礼登山　森嶋七郎兵衛

一京都ゟ帰　文敞房

一薮入養父入ニ被遣也　関助　権平

一八幡參詣、當社へ參詣、御初尾銀壱包當社計也

定観房自浄房供和助、豊蔵坊塔之坊粟津五右衛門、右三所へ使僧、塔之坊へ者手製墨一羊羹一棹被遣之、五右衛門方へ者金百疋昆布二十本被遣之也

一御暇頂戴、国元へ罷下　養全房

廿日雪

一仙臺御屋敷ゟ御状使来

廿一日

一冨田へ御酒取　使和助

一登山　大仙院

一在所ゟ罷帰ル　関助

廿二日天氣

一京都杉浦三郎兵衛方ゟ使

浴油供一七箇日之御札歓喜團被遣之

一淀町人藤次郎と申物病氣ニ付先達御祈祷相願、則今日河村与三右衛門ゟ添状ニ而藤次郎妻登山、

御初尾百疋

一登山　門法寺

一登山　中西右馬

廿三日天氣

一私用ニ而出京丸屋ニ而一宿也　三宅平兵衛

一八幡豊藏坊ゟ年頭之御祝詞として使僧也

廿四日晴天

一仙御屋敷ゟ御状使来也　森嶋源内

一在所へ養父入ニ参

廿五日

一仙御屋敷江御書使　和介

一私用ニ而出京　住観房

廿六日天氣

一登山　智山林亮房

川口錫杖寺弟子光観房

一帰山　三宅平兵衛

一年甫之為御礼登山　橋本粟津五右衛門

一登山　古市村　徳王寺

廿七日日和

一退山　林亮房

一冨田奈良屋ゟ使也　光観房

廿八日天氣也

一帰山　森嶋源内

一肥前之国圓海房登山、同国之僧一人連也

一大屋形様御三十五日御顕堂影ニおいて御法事有之候、御僧中江御布施青銅百文宛也

廿九日天氣

一丸喜迄挾箱為持遣ス　使　関介

一御祝詞として登山　津嶋屋　庄兵衛

一八幡豊藏坊へ年始之御使僧、先達而年礼として使僧来候御挨拶旁使僧被遣也　文敞房　供和介

一登山　　中西右馬

一丁子屋庄左衛門方ゟ使、御借被遣候利足銀来也

晦日

一御出京（丸屋御旅宿也）　　御供　定観房井上主悦後藤弾次　下人権介

一帰山　　養全房

二月朔日　無事

二日

一退山　　圓海房（肥前）　祖専房

三日

一登山　　中西右馬

四日

一帰山　　後藤弾次

五日日和

一御迎に御乗物人弐人下部壱人参、今日者御用有之御帰山無之候

一使参候故退山　　徳王寺（古市）

六日天氣也

一御迎物弐人（酉）指登也

一大坂大黒屋清五郎方ゟ相求候紙淀井上吉右衛門迄参、則淀ゟ相達ス、賃銭三十文遣之也

一御帰山　　御供　　定観房　井上主悦　権平

一年始之為御礼登山　　伏見茨木屋　清兵衛

七日晴天（亥）

一登山　　寶寺寺中　大仙院

一御暇頂戴、八幡（江）参詣　　亮源房

八日曇（子）

一御室宮御灌頂之義ニ付則日帰山
正親町様江御聞合として御使者
丸屋ニ而飯壱度二人也
一親元江為年礼参ル

廿
九日霽天

一年甫之為御祝儀登山
一年始為御祝詞登山
一御酒取、冨田江

寅
十日昼過ゟ雨

一登山
一登山
一帰山

井上主悦
供関介
松田郷左衛門

淀過書座年寄
木下善左衛門
壺屋伊右衛門
使
関助

大仙院
徳王寺
松田郷左衛門

卯
十一日曇

一登山　大仙院
一御團拵也
一為御機嫌御伺登山　中西右馬
一年甫之為御祝詞登山　南都小刀屋忠兵衛
一年始之為御祝詞、大坂長岡屋久兵衛方ゟ飛脚便に而印物披露状来也

辰
十二日天氣

一退山　徳王寺
一同　大仙院
一大屋形様御七ゞ日之御法事、於御影堂、御修行僧中江御布施銀子被遣之也
一八幡塔之坊ゟ使
一智積院ゟ浄源と申僧登山、尤及暮一宿也、住観房知人也

巳
十三日晴天

一江戸仙臺御屋敷江御納經之御使僧首尾克相済候由、為御知書状来、私用有之候故今暫逗留、帰登迄者延引ニ成候ニ付日記付委被致申来也、延寿院寛興房ゟ

午 十四日曇

一仙臺御屋敷江御清物使、尤正月分御守札也、御朦中ニ者不申指上候、當十三日迄ニ而御忌も被遊御明、依今日御札差上候使 和介

未 十五日晴天

一御機嫌為御窺登山 中西右馬

申 十六日天氣

一菱川慈観房弟子登山 大仙院

一登山 井上主悦

一御用之儀ニ付出京、丸屋方ニ而飲食、一宿也 肥前 圓海房

一登山 丹後宮津 糸屋平八

一為御機嫌御窺登山

酉 十七日晴天

一納經御使僧之為御挨拶江戸旅宿へ御使者、右之御請京御屋敷迄口上書相添使僧、并御祈祷御入

用請取使僧　養全房
先達而御聞合被遣候處、十六日以後者何時ニ而も御勝手次第に御渡可申旨申来、則今日御使僧
被遣候得共、御休日ニ而相渡不申候也　供権平
一退山
一帰山　丹後糸屋平八
一私用、伏見江参　井上主悦
松田郷左衛門

戌
十八日雨天

一登山　大仙院
一帰山　松田郷左衛門
一登山　松田新蔵
一丸屋喜八ゟ使来也、一宿

亥
十九日曇

一御團拵也
一退山　圓海房

一被致大仙院出京候ニ付、御頼被申度事有之立寄
一菱川慈観房へ使　　権平

子
廿日曇

一藝州大願寺ゟ年甫之為御祝詞、仁保嶋海苔壱包御状来、大坂飛脚便
一年始之為御祝詞登山、一宿也　　佛師 印覚
一御機嫌為御窺登山　　松井村 中性院

丑
廿一日天氣

一登山、則日退山　　林亮房
一仙御屋敷江御守札使　　関助
一登山　　大仙院
一伏見へ参、則日帰山　　三宅平兵衛
湯本三左衛門方へ被遣候御札伏見迄持参也、朝暮早春に相下候得共、間違之義有之延引

寅
廿二日晴天

一冨田御酒取　　使 和介

一正親町様御内桜井民部ゟ状、紙屋方ゟ飛脚ニ而来也

一登山　北山　観道房

一大坂へ罷下候　三宅平兵衛

一（無記入）

一平野屋五兵衛座敷聖護院之邊ニ有之、此度一両日廣幡様御借被成度由ニ而正親町様へ申来、又右江も正親町様御内桜井民部ゟ役者中へ申参、無據御事故、早速大坂平野屋伊信方江成り不成之儀御聞合として急飛脚　関助

卯　廿三日雨天

一仙御屋敷江御入料御請取使僧　丸喜方ニ而飲召（マヽ）　養全房　井上主悦　供　権平

井御合力金御拝領被　仰付、則持帰也

一御納經御使僧之為御挨拶銀子五枚　御拝領之御使者留主居米山小傳次被相勤候處、幸使僧被差出候故、乍略義此節殊之外御多用故、何共宜様ニ御披露被下候ハヽ、忝奉存候由被申、則御口上書等請取帰山、御使も有之處、是も使僧へ乍略義御状等相渡候也

一仙臺御城下二月六日夜四ッ時ゟ明ル七日之昼迄出火、凡軒数七千軒程焼失、右京都御留主居ゟ為御知来

一正親町様へ御使者相勤　井上主悦

一紙屋庄左衛門へおせき婚礼之為祝義御使僧、養全房相勤

一年甫之為御祝詞登山、尤一宿也　宮田太田七郎兵衛　供半介一人

一淀過書座年寄木下小兵衛宮田弥五郎右衛門木下三郎右衛門、右三人連名ニ而書状遣ス　使和介

一来ル廿五日国元へ罷下候為御暇乞登山　肥前圓海房　中性院

一退山

辰

廿四日雨天

一大坂平野屋伊信方へ五兵衛所持之座敷之義相尋遣候處、此節不幸之儀有之未朦中、殊ニ公家様方御入被下候而ハ宮様江も御届不申候而者相済がたき由ニ而、先此節者御断申上候と申来也、早速束又右之趣を

正親町様へ被申上候、使丸屋ニ而一宿飲食　善介

一北野天神江参詣　文敵房

尤則日帰山、恵因房者少〻外ニ用事有之滞留也　恵因房　自浄房　森嶋源内

一為御見舞登山　大仙院　中西右馬

巳
廿五日雨降

一退山　肥前圓海房

一御使之人帰　善助

午
廿六日雨天

一御屋敷江御使僧観道房相勤らる也、供和介

一大坂梶木町播摩(磨)屋九郎兵衛病氣ニ付御祈祷御願、手代登山、則浴油供一七箇日御修行被遊也　恵因房

一帰山

未
廿七日日和

一私ニ下帆　井上主悦

一此度依参宮乍序登山　肥前神代永田安右衛門　足輪両人　下部四人

尤一宿也

申
廿八日晴天

一京都町使　　関助

西
廿九日七ツ頃ゟ雨

一大坂ゟ帰山　　井上主悦

一先達而紙屋庄左衛門妹婚礼之為祝義、御印物使僧を以被　進之候為御挨拶使来、使之ものへ祝義、青銅十疋半紙二折遣之也

一大坂より帰山　　三宅平兵衛

一時節為御見舞、吹田圓満寺ゟ使僧、則弟子真賢房登山

一登山　　林亮房

戌
三月朔日雨天

一退山　　圓満寺使僧　真賢房　　松田郷左衛門

一私ニ伏見へ参

一去月廿八日夜四ッ時に摂州鳥養西村薬屋治右衛門と申もの之妹朝六ッ前之頃ゟ家を出行方相知れ不申候故、御占被成被下度由御願申候得共、此方者何レとても占と申事者不致候、其身ニ無恙一刻も早ク罷出候様ニと御祈念致進候と申入也

則廿九日昼八ッ時に天性と帰家仕、右乍御礼登山、御初尾印物等持来也　鳥養村　治右衛門

右治右衛門登山致ニ付、時節為御伺、樋野兵助ゟ印物書状来、則為御挨拶、治右衛門へ外郎二棹兵助へ墨一包被遣之　治右衛門へ御供物御守等被遣之也

亥　二日雨天

一上巳之為御祝詞、中西右馬ゟ使　松田郷左衛門

一帰山

子　三日日和

一當日之御祝儀、於客殿、寺中不残申上候也　中西右馬

一上巳之為御祝義登山　林亮房

一退山　御出入物山下　傳三郎

一為當日之御祝詞参ル　理兵衛

長三郎

丑　四日天氣

一仙御屋敷江御書使　　関助
一登山　　中西右馬
一私用、伏見へ罷越　　松田郷左衛門
一先達御祈祷御願主大坂播摩屋九郎兵衛ゟ手代、御札歓喜團頂戴ニ登山

寅
五日雨天

一粟津五右衛門養子之致弘候由、依為祝儀赤飯使来　　紙屋庄左衛門
一登山　　松田郷左衛門
一伏見ゟ帰山之處、又ゝ用事有之上京

卯
六日天氣

一御上京　　御供　　定観房
井上主悦
下部権平
紙屋庄左衛門
祝薗神宮寺弟子
一退山
一登山
一下部関助、此季ゟ御暇頂戴仕度御願、則願之通被申付候、今日ハ在所へ参候

辰
七日晴天

一本堂普請初　　松田新藏

一登山、菊苗来　　松田郷左衛門

一帰山之處、則日出京

巳
八日晴天

一登山　　大仙院

一先達而御祈祷相願候大坂播摩屋九郎兵衛病氣追日全快仕難有由申来、且息女病氣ニ付又〻御祈禱御願、則一七箇日浴油供十一日ゟ御修行之積ニ被申遣候、御入料金拾両持參、手代庄兵衛登山

一時節為御伺登山　　八幡塔之坊

午
九日昼過之頃ゟ雨天

一御旅宿へ大坂ゟ申来候御祈禱之義申上使　　勘次郎

一伏見ゟ帰山、則日出京　　松田郷左衛門

一登山　　大仙院

一同来　　中西右馬
　　関助

未
十日曇

一淀宮田弥五郎右衛門登山　　松田郷左衛門
一帰山

申
十一日晴天

一御迎差登、御乗物　　和助
一御機嫌為御窺登山　　古市徳王寺
一御帰寺　　御供　　定観房
　　井上主悦
　　権平

酉
十二日晴天

一為御尋登山　　知積院集儀周音房
一柳谷江参詣之序為御窺登山　　丸屋喜八妻妹下女

尤、山下ニ而一宿申付

衣把伯母 おちく下女
下男一人

一寶寺利休へ右女中為案内自浄房被參也

大仙院

一登山

一江戸表御使僧相済先月廿九日立、今日先觸来

戌

十三日晴天

一退山

智積院山内 周音房

亥

十四日天氣

一御室御灌頂有之、右為御歓御使僧、白銀三枚被差上之也

住観房
下部関助
延寿院
供藤介
松田郷左衛門

一江戸御使僧、道中無恙帰山

一此度相應之處有之、相片付、依御暇頂戴退山

一午之年御祈祷御願候阿州之家中長〻病氣之處御顕(影)を以快氣仕、依御礼祈祷相願度候条、何卒金二三両ニ而御修行被成下候ハヽ、難有奉存候と、先相尋として大坂ゟ書状来、右返答ニ者、御入料と申而者十両又者五両宛ニ相定有之候得共、先年も御頼且者御礼祈祷、二月中頃ゟ三月中迄者恒例之御祈祷御修行有之候、拙僧共心得を以右一同ニ支度等仕候而御修行被成進候様ニ致

度、左様御座候へ者御申越之御入料ニ而随分相調候と興松寺ゟ申遣之也

然處、弥御礼祈祷御願申上度候条、前申上候通之御入料ニ而被成下候ハヽ、難有奉存候と阿州ゟ大坂江申来、則大坂ニ河村瀧左衛門と申人有之、則登山、御入料金弐両持参、御菓子代銀一包

一為御見廻登山　中西右馬

子

十五日晴天

一仙御屋敷へ御守札使　和助

一退山、延寿院、紀州迄権平遣也

一在所へ参　藤介

丑

十六日晴天

一為御見廻登山　成智院弟子　大真房

一在所ゟ帰　藤介

寅

十七日快晴

一御屋敷へ

一京都町使　関助

一御觸状来
一登山　　智積院山内　春専房
　　等空房
一冨田へ御酒取　　和介
一登山　　吹田圓満寺弟子　真賢房
一先達而御願申候阿州之御祈祷、則今日大坂河村瀧左衛門方ゟ御札歓喜團頂戴使来

卯
十八日晴天

一大坂中田八右衛門ゟ使、吹田屋与一兵衛ゟも書状来
先頃相頼置候生蝋百斤相調蝋燭仕立之儀尋来、依之二十匁掛百丁、十五匁掛百丁、六七匁掛百丁、
先右之通御仕立被下候様ニと頼遣也
右代銀之内へ銀五百目奥ゟ被差下也
一登山　　肥前嶋原　源兵衛
一先達而御祈祷御願申上候大坂播摩(磨)屋九郎兵衛(病人)息女、則今朝御結願、依御守札頂戴に手代庄兵
衛登山、下人
一登山、兼而相頼置候幕一張出来、則持来　　神宮寺弟子　俊専房
一伏見薩州屋敷留主居、此邊一見之序ニ登山　　家来　二人

一登山　　宮津　宝寿院

一此度上京仕候故、乍略義為御見廻登山　　信州　惣持院　弟子一人　中西右馬

一登山

辰

十九日　八ツ頃ゟ雨天　天氣ゝゝ

一此度正親町様日光御勅使四月朔日御發足

右御供侍一人大黒屋清五郎世話ニ而参候筈ニ御座候處、無據公用之筋致出来、無是非御断旁登山、則日退山　　大黒屋　清五郎　　嶋原　源兵衛　　俊専房

一出京

一退山

一高槻大黒屋清五郎ゟ使来

巳

廿日雨天

一東照大権現宮御神供料之内銀四貫四百三十五匁六ト五厘、年分一割宛之利足ニ而九年以前子ノ年慥成證文を以（肥前有家村源兵衛と申者へ）貸付、年ゝ催促致候得共返納不仕、依而此度大坂御奉行所へ相願候故御届申上候、京都御奉行所へ　　使僧　住観房

一京都ゟ帰ル　　嶋原　源兵衛

一離宮八幡宮神宮寺妙喜庵宝積寺観音寺

右之ケ所宝物幷古跡等是迄御巡見之節入御覧候品〻、其外ニも名物有之候ハ、器物等迄委細書付、来ル廿八九日迄ニ西御役所證文方へ御差出被成候様ニと被　仰渡候、此旨無間違様可被申達候、以上

申

三月廿日　　松村三吾

山田七左衛門殿山田弥三右衛門殿

右之通申参拝見、則答

松村三吾殿より之来書御見せ被成候紙面之通被　仰出候ハ、、當寺へも三吾殿より格別ニ被申聞ニ而可有御座候、如此之連名先例無之儀故、一同ニ御請難申入候、此段宜預御沙汰候

三月廿日　　観音寺役者　興松寺

山田七左衛門殿同弥三右衛門殿

右之通両太夫へ申遣候得者、翌日松村三吾より前書之通申来

午

廿一日天氣

一大坂御奉行所へ願之筋有之使僧　宝寿院 供藤七
一退山　信州 惣持院 弟子一人

一登山、則日退山　古市 徳王寺
一淀問屋伊助一儀ニ付年寄木下小兵衛宮田弥五郎右衛門木下三郎右衛門ゟ書状来、則宇野伊久左衛門登山
返答者此方ゟ可申入旨申也
一来廿四日　惣法務宮　勅會被為行　御灌頂候間、御參可被成候様ニと申来、右御請委義行事記草案に有之也、右御書急御用と申參候故、京紙屋庄左衛門ゟ飛脚ニ而来
一先刻之御返事、暮木下小兵衛宮田弥五郎右衛門木下三郎右衛門宇野伊久左衛門、
右三人へ手紙遣ス　使　善助

未廿二日晴天

一肥前神代天外房登山、僧一人同道　徳王寺
一登山　嶋原 源兵衛
一退山
一明廿三日仙臺屋敷　御留主居例年之通振舞、右ニ付出京　井上主悦

一御室宮御灌頂、来ル廿四日被為行、右ニ付年頭之格式ニ而御出京被遊、今日先〈紙屋迄御乗物遣、雇物(者)二人

廿三日晴天

一御出京　御供　権平　住観房　定観房　後藤弾治　亮源房　文敬房　高木丈太夫　寶寿院　中西右馬　寶寿院　鳥養　浄光寺

一出京

一永井近江守殿ゟ年頭之御相(挨)拶御使者

一大坂ゟ帰山

一登山

一出京

一登山

廿四日晴天

一退山　浄光寺

廿五日雨

一京都ゟ帰山　寶寿院
一同　文敞房
一同　亮源房
一同　住観房
一同　弾治　和助
一退山　中西右馬

廿六日天氣

一紙屋庄左衛門方へ御荷物取ニ遣　関助
一大坂へ罷下、尤先達而御奉行所江御願之筋有之罷出候得共、此節御用多候故、今日者御願書不相納、廿七日ニ罷出候様ニと申付有之、依而今日昼船ニ而下帆　使僧　宝寿院　供　和介
一（記入なし）
一登山　松田新八郎
一松平豊後守殿今廿六日卒去ニ付、町中鳴物之儀今日中可致停止候、明廿七八両日ハ自分可致遠慮候旨御觸状来

廿七日雨天

一御迎、差加籠(駕)弐人相登ス　井上主税　中西右馬

一京都ゟ帰山

一登山

一登山　恵心房　高槻　松田新八郎

一退山

廿八日半清(晴)

一登山　大仙院

一登山　仁兵衛　高槻丹波屋　下人　後藤弾治

一為御迎出京籠つかハす

一御帰山　御供　弾治　後　定観房　前　権平

廿九日晴天

一大坂ゟ帰山　寶寿院　下人和助

一正親町様江戸御下り為御供出京　井上主税

一退山　下村平藏　徳王寺

四月朔日大雨

一肥前神代川崎利右衛門殿御老母大坂迄御當着之為御知有之、依之文性房罷下り、下人関介

二日天氣

一出京　寶寿院

一冨田へ御酒取　仁兵衛

三日天氣

一出京　住観房　下人善助

一帰山　同人　同人

一登山　観道房　丸屋喜八　同伴

一帰寺　下部関助

一登山　　寶寿院

一明日者大屋形様御百箇日之御法事有之ニ付徳王寺被致登山候様幸便手紙遣

未
四日晴天

一大屋形様御百箇日ニ相當御廻向　　古市徳王寺

一登山、則日退山　　観道房

一退山　　丸屋喜八

五日　晴天

一肥前神代川崎利右衛門殿御老母様御同伴之御當着　御供　徳兵衛　茂左衛門

昼過ゟ宝寺八幡并男山へ御參詣

御供　役僧宝寿院　住観　自浄　下人権平

一御團師（ママ）

一登山　　大仙院

右両人即日退山　　中西右馬

六日　上天

一時節為御見舞登山　菱川観音寺

一登山　右馬

即日退山

一八幡塔之坊ゟ使来ル

一上京　宝寿院

一御国御客へ宝物開帳

一登山　大仙院

七日　同天

一登山　徳王寺

一同　丸屋与十郎

八日　晴天

一為年始御祝詞登山　村上勘兵衛

同性子息

一當所神事ニ付為拝見川崎利右衛門御母さま御家来両人、御供大仙院住観自浄恵因与十郎源内権

平

九日　雨天

一為伊勢參宮、川崎利右衛門御母さま家来両人
為御見送、住観房文敬房平兵衛恵因定観弾治自浄下山
一退山　大仙院
一御用ニ付而伏見へ被參候　三宅平兵衛
尤即日帰院
一冨田行　藤介

十日晴天　丑

一御觸状来　西田源藏
一此間藝州ゟ罷帰、年甫御祝詞御伺旁登山
一浴油御菓子津嶋屋方へ取遣、荷物等無之候故、御国御客之御荷物丸屋喜八迄遣ス、莚包二ッ、
跡付一遣之　使善介
一登山、則日退山　大仙院
一御機嫌御窺として登山　中性院
一為御見廻登山　紙屋栄性尼

安兵衛者高槻ニ用事有之一宿致也　　同安兵衛下人

一當社家中田主税来客を得、乍御無心御客殿を拝見仕度由申候得共、今日者御差支御座候故、無據断申入也

十一日晴天

一登山、即日ニ退山　　紙屋内安兵衛

一松田新八郎儀一昨九日ニ首尾能被　仰出候由、親父ゟ申来使也、菊之苗被進之也

一御團拵也

一山下ゟ尼登山ニ而土砂相うけ罷帰ル

卯

十二日天氣

一御觸状来、則刻先へ送也　　中西右馬

一登山

一紙屋庄左衛門方ゟ使、仙臺御屋敷留守居ゟ之書状持来、蛭屋ゟ之御札箱等奉書抔各持来也

辰

十三日霽天

一仙臺御屋敷江御書使　　和介

一国元ゟ罷帰　神咒院
一京都ゟ罷越　寶寿院
一登山　大仙院

巳
十四日天氣

一登山　中西右馬
一御国御客之旅宿為相尋出京、則相應之座敷有之相窮(極)則日帰山　三宅平兵衛

午
十五日大雨

一仙臺御屋敷(江)使僧(并)　使僧　神咒院
正親町様(江)御留守為御見廻使僧、筆ニ抱被遣之、鍋嶋御屋敷御留守居へ筆同所役人安右衛門(江)
筆各壱括宛、海老屋喜兵衛(江)壱括遣也、鍋嶋海老屋(者)書状相添也　関助　善介
一右幸便ニ先達(而)相求置候小豆五斗之内弐斗取ニ遣、所(者)京東六条下珠数屋町木こく之馬場東洞
院東へ入大坂屋十兵衛、右代銀之内へ先金弐歩手紙添遣ス、則請取持帰也
一寶寿院知人京近江屋新四郎ゟ使、右使同道ニ(而)出京、道迄被出候得共殊之外洪水ニ(而)使之も
のも罷帰、尤一宿也

十六日雨天

一出京　弾治
自浄　下部和介

一退山　寶寿院

一登山　西田源藏

一冨田御使　下部治兵衛

十七日晴天

一御清物使　関助

一御院家御出京、御供定観房西田源藏権平、小乗物山下6弐人

一権平親大病ニ付替りニ和介遣、権平親元へ参

十八日晴天

一登山　松田新藏

一登山　淺田洞雪

一本堂屋根足代仕舞　同　文藏

十九日晴天

一参宮人衆京都迄御帰、山下籠之者帰ル

一塔之坊ゟ返書来

廿日晴天

一帰山　後藤弾治

廿一日晴天

一出京　後藤弾治

一帰山　善介（下人）

善介

廿二日晴天

一御院家御迎　山下ゟ両人

一御院家御帰山、御供定観房後藤弾治、下人和介

廿三（日）晴天

廿四日晴

一登山　いつゝや　庄兵衛

一使　高槻恵信房へ

四月廿五日天氣

一京都町使　関助

一登山　寶寿院

一中法御修行有之ニ付、被遣御頼登山　祝園　神宮寺　観隆房

一退山　高槻　恵信房

廿六日晴天　曇

一中法御修行有之ニ付、被遣御頼各登山　智山　智明房　大仙院　徳王寺　観道房

一殊之外無人故御祈祷中相頼、則登山　八百屋　久兵衛

一登山　北野　覚城房

一同登　　中西右馬

一日光ゟ井上主税より書状来

廿七日晴天

一普賢延命中法御開白

一登山　　八幡塔之坊

一同　　中西右馬　同豊之介

廿八日天氣

一御客様方御迎ニ旅宿迄（嘱）加籠之もの両人遣ス、則皆〻御登山、紙屋栄性尼同道

自浄房　　下部童子一人

一登山　　西田源蔵　同　惣蔵

廿九日日和

一御祈祷御結願

一退山　智明房
　　塔之坊
　　覚城房
一同　徳王寺
　　八百屋久兵衛
一出京　神咒院
一退山　西田源藏
　　観隆房

五月朔日曇

一御国御客御出京、御供自浄房、御老母様利右衛門殿栄性尼、右御三人者加籠(籠)也、大仙院同道ニ而出京
一退山　祝園神宮寺
　　観道房
一正親町様今朝御着、早速御暇頂戴、井上主税帰山

二日晴天

一御院家御出京、御供定観房井上主税

一出京、私用　了源房
一登山　八百屋庄兵衛
一帰山　神咒院

三日雨天

一登山　水野平蔵
一帰山　亮源房
一京使　善介
一大坂江筆差下シ　西田惣蔵
但薩州屋敷与市兵衛八右衛門繁右衛門

四日晴天

一節句之為御祝詞、中西右馬ゟ使
一江戸表中野左平治義相登候様ニ被仰遣被下候様ニ先達而中田八右衛門ゟ申参、則申下候、今日無難ニ而罷登　中野左平治

五日天氣

一拜殿御法事　中西右馬

一為御祝義登山　西田惣藏

一大坂ゟ帰山

六日晴降（ママ）

一出京　養全房

七日晴天昼ゟ雨

一高槻使僧　文敞房

一大坂中田八右衛門殿ゟ佐平治殿為迎市介登山　供善介

一帰山　養全房

一祝園村神宮寺弟子俊專加行護摩修行願故登山

八日雨天

一京使　善介

九日半晴

一下帆　　中野佐平治

養善房　市介

一廻状到来

十日半晴

一（茶壺遣）宇治伏見淀へ御守札使　　善介

江戸下シ之御守札、伏見丸屋へ頼遣ス

一山下喜兵衛親父為徳老へ参候ニ付旅宿へ状箱ヲ遣ス、江戸忍長子ゟ衣屋藤兵衛方へ参候銀子入書状遣ス

一俊専加行護摩之前行

一調子村瑞泉寺ゟ持参飛脚賃刻前拾八文案文望ニ付写遣、觸状来、先達而御老中上京ニ付道橋掃除等之事相觸、右ニ付請書差出候様ニと案文添相廻り候處延引ニ付又〻廻状相廻り候、十一日朝五ッ時迄ニ松村三吾方へ持参いたし候様ニと相觸候

十一日半晴

一昨日觸状之請書松村三吾方へ持參、神咒院（供善介）日帰

一帰山　西田惣藏

一登山

一帰山　津嶋や庄兵衛

権平

十二日雨天

一登山　粟津五右衛門

一菊花持參　大仙院

一客道同（ママ）ニ而寺拝見登山　中田宮内

一浪人者両人參、御口力（合）之願と申者論成者參候

十三日

一御影堂法事

一伏見丸屋五兵衛方ゟ使来、十九日頃内藤備後守殿忍ニ而八幡山崎一見ニ□（付）客寮少之間借用被成度旨丹波屋仁兵衛相頼ニ付五兵衛方ゟ申来、當山御祈祷中ニ而何之御構申間敷候得共客寮□（御）□（用）達可申旨申遣候

十四日雨天

一京使、旅宿ヘ荷物取ニ遣ス　　権平

一京都ゟ下人帰ル　　和介

十五日晴曇

一登山　　西田源蔵

一登山　　中西右馬

一御團拵

十六日

一帰山　　養全房

一御院家御帰山

一御客衆皆御帰山

一登山　　寛道房

一中西右馬殿ゟ使来

十七日晴曇

一俊專前行結願
一登山　大仙院
一浴油開白

十八日晴天

一禁裏献上使僧　神咒院
右献上相済候得共、御所ニ而御能有之候故御返事明日取ニ參候様、夫故一宿いたし十九日ニ御返事受取○十八日正親町様參御染筆物受取、尤宰相様御所御能ニ御出被遊候故、桜井民部被相渡候、閑院宮様江御札献上
一長持ニ肥前之御客衆荷物入為持帰ス
一内藤備後殿忍ニ一見ニ付客寮借用被成度旨ニ付、丹波屋仁兵衛登山
一登山　中西右馬
一大坂森田庄太郎、窕誓傳摺度由ニ而登山、則一巻摺、一宿いたし帰ル

十九日昼ゟ雨

一登山　水野平藏
一帰山　神咒院

一御清物使　和介
一中西右馬〻使来
一俊専加行護摩開白

廿日晴天

一内藤備後守殿御参詣被成客寮ニ御入被成、茶進候、案内（中西右馬 丹波や仁兵衛）　水野平蔵
一退山

廿一日晴天

一川崎利右衛門殿御下り被成候、高野参詣之思召ニ而御老母様〻先ニ御立被成候
一文敬房、高野参詣
一寛道房下帆　是先達而井関与一兵衛方〻薩州屋敷子共之義申来候ニ付召連参筈ニ而罷下り候
一西田惣蔵當病故伏見へ養生ニ参

廿二日晴天

一御清物使　善介
一永井近江守殿使者　伊藤文吾

一丸屋喜八ゟ使来、御客方之染物持參
一觸状到来　先達而被相觸候酒井讃岐守殿廿三日頃御京着之処延引之旨申来候

廿三日晴天

一（無記入）
一登山　中西右馬

廿四日晴天

一登山　多聞院
一登山　大仙院
一大坂使　権平

廿五日晴天

一御入料請取使　日帰　神咒院
後藤弾治
下人　和介
一大坂使帰山　権平

一先頃内藤備後守殿御登山ニ而客寮ニ而暫く御休息被成候為御礼、丹波屋仁兵衛方ゟ使来、進物
玄関録ニ記ス

廿六日晴天

一俊専加行護摩結願

廿七日半晴

一寛道房上帆

一薩州屋敷淺井馬之介當山江相勤候筈ニ而井関与一兵衛手代同道ニ而登山

一帰山　文敬房

一川崎利右衛門殿高野御参詣被成御帰山

一登山　中西右馬

一俊専退山

廿八日

一出京　井上主税
下人　権平

右八松田新八郎方へ御祝義被遣候御使者、且肥前御客方御輿洗御見物之致世話候筈
一退山　寛道房

廿九日

一淀會所船年寄方ゟ五月分御祈祷料為持越候
一為祇園御輿洗御見物御出京左之通
芳室様　川崎利右衛門様　自浄房　下人茂左衛門
一登山弟子俊専加行護摩御礼とゝ（シテ）　神宮寺
一冨田乾加兵衛ゟ使来、當病人御祈祷相頼置候処、病死故御断申候也
一曳石　登山

六月朔日晴天

一帰山　井上主税
下人権平
一昨日御出京被成候御方ゝ帰山
一登山　大仙院
一觸状到来、御所司御替代後未出礼不相済候間、朔日之出礼差扣可申旨申来候

一退山　曳石老

二日晴天

一肥前御老母様方皆御下り被成候

御院家惣門迄御見送、其外山下見送、文敬房濱迄、自浄房大坂迄見送ニ被遣

一登山　中田式部

一退山　神宮寺

一私用ニ付高槻江参　井上主税

三日晴天

一淀船年寄并斉藤小八郎方使遣、先達而肥前御客方御寄御世話之挨拶トヾ(シテ)御團五顆小八郎、廣嶋小杉弐束上柳平兵衛へ、御團十一船年寄

一中西右馬殿ゟ使来

四日晴天

一大坂江御客衆見送ニ下り候者帰山、和介

一長兵衛大病死引導養全房

五日雨天

一御巡見、八幡御参詣被成候、山崎へも御出被成候事も可有之旨、山下惣使方ゟ為知候　三宅伊兵衛

一時節為御機嫌窺登山

六日晴天

一大坂江芳室様為御尋、使僧下帆、文敞房　自浄房

一上帆　神咒院

一出京　権平

一京使正親町様仙屋敷

七日雨天

一中西右馬殿親十七年忌ニ付、淺瓜茄子被越候

一淀上柳平兵衛登山、先達而此方進物遣為御礼

八日晴天

一御院家御出京　御供定観房井上主税、御乗物山下ゟ両人　権平

一摂州西宮打出村九右衛門當病平愈之御祈祷頼参、花水供二夜三日、九日ゟ十一日迄修行、則御

札御符（符）相認加持開眼

一廻状　林丘寺宮様夢去ニ付停止（音曲）之事

一上帆　文敞房

一帰山　神咒院

九日

一登山

一打出村使退山、則御札御符（符）相渡ス　中西右馬

一廻状来、停止今日迄

十日晴天

一（記入なし）

十一日

一御院家御迎　山下6両人遣

十二日半晴

一御院家御帰山
一冨田江御酒取　藤助

十三日　曇

一八幡豊蔵坊ゟ為土用御尋使僧　自峯房

十四日　晴天

一勧修寺宮様江暑氣為御伺、素麺(カ)一箱　御使者　井上主税
用事有之京都辻三に参ル　供　和介
一淺井馬之介知人三人登山
兼而十九日ニ者御暇被遣被罷下候筈ニ御座候處、慥成便故、右登山之もの共江井関氏迄手紙相
添頼遣被相下　薩摩屋敷へ暑中御尋御書遣し
一出京　淺井馬之助
一登山　神咒院　大仙院　中西右馬
一登山　小刀屋　忠兵衛

十五日日和

一登山　観隆房
一帰山　神咒院
一御室宮様江土用為御伺使僧被相勤帰山　供和介

十六日晴天

一先達而為祝儀御使者被遣之候為御礼登山　松田新八郎
一中西右馬ゟ使
一冨田使、酒糟十弐貫目取遣　善助

十七日晴天

一登山　西田惣藏
一帰山　井上主税
一登山　寛道房
一登山　俊専房
一奈良漬仕込
一観音會式仕支度

十四日一鍋嶋屋敷杉町杢右衛門へ御使　下部

暑中御見廻状御頼被遣候、尤興松寺ゟ手紙添

十四日一勧門様へ御使　主税

右者例之通暑中為御伺、坊官中迄御書を以素麺廿五わ一箱被献之候

取次柴田小藤太

同此間おゐた様ゟ御見舞御奉書を以漬せんまい被遣候御礼御使口上附差出ス

右献上物御答、藤本右兵衛承書被差出候、尤坊官中故障ニよって也

十四日一海老ヤ喜兵衛へ　御使　下部

右ハ暑中為御尋素麺二十把被遣候

神咒院ゟ承書差添

同一海老ヤ喜助へ　御使　下部

右同断也

同一山田孫七郎方へ　御使　下部

右同断　但此中御入被遊候節御馳走被申上候、御挨拶も被仰遣候、但主税承書

同一正親町様へ　御使　下部

浪華ゟ御到来之菜クキ一重被進之候、民部方へ外ニ用事有之、主税ゟ手紙遣之候追書

ニ右被進候趣加筆ニて差上候

十五日 一正親町様へ　御使　　主税

右ハ土用中御見廻として瓜二十入一籠被進之候、且侍従様　若様　感松院様へも暑中御見廻、同　若様御違例之御見廻

四条様御婚礼被為済候御悦　殿様　感松院様へ

同 一八条前中納言様へ　御使　　主税

右ハ土用御見廻瓜二十入一籠被進候、侍従様へも御見廻御口上　取次

御返答御相應、且先日も為御尋御出被進御大慶思召候、遠方故毎年乍御失禮以御使御挨拶も被仰越候、正親町様御傳言御頼被成候間、定而御聞被成候哉と思召候由、猶重而御出京之節緩〻御入被進候様ニとの御事也

同 一四条中将様へ　御使　　主税

右ハ先頃御婚禮首尾能御調被成候為御悦也、尤御直參可被仰入処、折節御寺務繁多ニ付、乍暑儀以御使被仰進候旨、家司木下壱岐迄御口上申述ル　取次　河口靱負

御留守之由ニ付申置候也

同 一御室宮様へ　御使　　神咒院 下部和助

右ハ暑中為御窺　素麺三十把入一籠被献之候　坊官中迄御口上

御返答　取次

一仙臺屋敷　米山小傳次江　御使　　神咒院

右ハ暑中為御尋瓜二十入一籠被遣之也

一　丸屋喜八　紙屋庄左衛門

右両人へ例年土用中諸方御見廻音物被遣候節一品ツヽ、被下候得共　仙臺家旧冬御不幸ニ付而、當寺ニも御倹約故、自今御断被成候、其段主税ゟ申述

一廣幡大納言様へ例年暑氣見廻音物被進候へ共、近年一向御挨拶も無之、且仙臺家獅(吉村)山(計)公ニも御卒去、御縁遠ク被為成候事故、去年ゟ久我家へ被相止候通ニ、自今年頭御勤可被進思召ニて、今度ゟ相止候也

十八日晴

一　登山　　松田新藏

右ハ此間新八郎へ御祝義被下、且自分へも御祝義被遣候旁之為御礼也　於御居間、御對面

夏菊數品一筒
素麺　一箱　被差上之候

一　登山　　淀年寄木下善左衛門
斉藤小八郎

右ハ暑中為御窺也、素麺一折献上之申候

御目見被　仰付候
　　素麺
　　御酒　被下候

一登山　　中西右馬

右ハ今日會式ニ付而御招被成御料理被下候

一登山　　西田源藏

右同断

一八幡豊藏坊へ　御使　　文敞　下部和助

右ハ暑中為御尋　水玉一筒被進之候、此間あなたゟ御使成候御挨拶も被仰遣候　御書も被進候

一同所塔ノ坊へ　御使　　同人

右同断　廣嶋小杉二百枚ヶ三束被遣候

一　使来ル　　京　津嶋屋庄兵衛ゟ

右ハ暑中為御窺平兵衛方迄書状を以水玉二筒差上之候　平兵衛弾治連名返事御挨拶申遣ス

十九日晴

一仙臺屋敷へ御使　　和助

右ハ御清物被差出候

一出京　後藤弾治

自分用事ニ付御暇頂戴罷出候

一登山　丸屋五兵衛

右ハ暑中為御伺参上、さゝけ一折献上申候

廿日晴天

一登山　中西右馬

一登山　大仙院

廿一日晴天

一帰山　淺井馬之介

御前江土産琉球粟森(泡盛)壱陶并寺中へ虎やまんちう六十、下人へ菓子壱袋

一今朝七ッ時山崎出火下黒門近所之由

一為火事見舞登山　油屋弥兵衛

一退山　中性院

廿二日晴

一寶藏虫于、初弁才天、厳ニ諸尊寶物虫于
一住観房不及御断智山江登山、仍而迎之為、且者見届之為ニ御使出ス　　権平　紙ヤ一宿申
一瘧病　　定観房

廿三日晴

一登山　　徳王寺
一同　　中西右馬
一宝物虫拂

廿四日晴天

一今朝七時過廻状到来　諸寺社　御所司へ出礼廿五日四ッ時罷出候旨申来
一出京　　日帰　　神咒院　供善介
右ハ御所司へ出礼明廿五日四ッ時可罷出旨御奉行所迄御届ヶ申上候、夫ゟ善介智積院周音法印へ書状為持遣候處、間違林亮房へ相渡、林亮房ゟ返書參候
一登山　　肥前神代　　葛雲師
一登山（人名記入なし）
一虫干畢

廿五日晴天

一御院家御出京、御供寛道房養全房井上主税後藤弾治、下人七人

右者御所司へ出礼

一御出京御供帰　養全房　後藤弾治　下人六人

廿六日晴天夕雨

一為暑中之御尋使　白麦壱袋　西瓜二ツ　鳥飼西村　中小路丈八

一登山　中西右馬

一退山　徳應寺

廿七日　京都大夕立

一御院家御迎　山下ゟ弐人遣ス

一御院家御帰山

廿八日晴天

一為暑中御見舞登山、素麺拾五把　林亮房

住観房一義ニ付平兵衛へ内談

一同　湯波弐拾本　八百屋庄兵衛

廿九日晴天

一登山　多聞院

晦日天氣

一登山　中西右馬

一暑之為御見舞登山　丸屋喜八